１．科目名（単位数）	図画工作Ｉ（幼）　（２単位）	３．科目番号	SJMP1141
２．授業担当教員	中川　画太		
４．授業形態	実技、講義	５．開講学期	秋期
６．履修条件・他科目との関係	図画工作科を指導する上に於いて、最も基本となる内容である		
７．講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特色や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
８．学習目標	１．技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 ２．様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 ３．子どもの発達段階における造形の特質を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 ４．素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 ５．子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。		
９．アサイメント（宿題）及びレポート課題	・基本的に、毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ・上記以外に、グループワークによるプレゼンテーションを行い、グループに於いて求められることと、それに如何に対応していくかなどをレポートして提出する。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】（購入の必要はない。）授業の進行に伴ってレジュメを配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教科書の購入は無いが、以下は、教科書購入と同等に必須なこととして捉えること】制作用具・材料を自ら揃えることも指導者になるための学習の重要な要素なので、オリエンテーションや前週に支持された内容に沿って、各自、確実に準備して授業に望むこと。		
11．成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 １．子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。（学習目標1・２） ２．子どもの造形表現の特色に関する基礎的な知識が身につけられたか。（学習目標3・４） ３．子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。（学習目標５） ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 １．授業への積極的参加　総合点の20% ２．日常の学習状況及び自己課題への取り組み　総合点の30% ３．制作や鑑賞活動の成果（ポートフォリオ等）　総合点の30% ４．課題（作品発表、レポート等）　総合点の20%		
12．受講生へのメッセージ	物を作る喜びや楽しさを体験する講座ではありますが、これまでに小学校・中学校・高校で児童や生徒として体験してきた“図画工作”や“美術”の授業とは異なり、指導者となるための授業です。 １.良好な体調で、積極的に臨み、制作に集中する。 ２.指示された用具や素材を、必ず用意する。 ３.制作した作品は、今後の貴重な資料となるものなので、必ず大切にファイリングする。 以上３点、厳守で、一つ一つの体験を一過性のものとせず、より多くを身に付けて行けるよう意識を強くして臨みましょう。		
13．オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		

14．授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第１回	講義概要。 （自らが児童生徒として受講した「図画工作」等に思いを馳せると共に、指導者としてのモチベーションを確認し「図画工作」に携わる自覚を強く持つ） 【鉛筆の使い方を通して、用具使用への意識を新たにする】	事前学習	シラバスより、講義概要を捉えておく。
		事後学習	本講義を受講するに当たり、心構え等、重要なポイントを整理し、必要となる用具などをそろえる行動を起こす。
第２回	オートマティズムによる描画実習I （幼児の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるＩ 〈気づきのポイントを体験する〉） 【ボカシ、ドリッピングなど絵の具を使った表現】	事前学習	必要な用具と材料を必ず準備する。その際、どこでどのように手に入れられるか、値段、他にどのような類似したものがあるかなどを、チェックする。
		事後学習	返却された前回の作品を、しっかりファイリングする。【今後、全作品が同様である】第２回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。
第３回	オートマティズムによる描画実習II （幼児の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるII 〈工夫とその結果から感じる体験〉） 【スタンピング】	事前学習	第２回同様、必要な用具・材料を必ず準備することと、それに関わることのチェック。
		事後学習	返却された第２回の作品について、反省し求められたことについて考察する。第３回について、自分の試みた方法とその結果、他の学

			生が試みた方法とその結果を、整理する。
第４回	オートマティズムによる描画実習III （幼児の表現から、より多くを受け取れる能力を身につけるIII 〈絵の具遣いの応用から、より多くを受け取る〉） 【デカルコマニー】	事前学習	第３回同様、必要な用具・材料を必ず準備することと、それに関わることのチェック。
		事後学習	返却された第３回の作品について、反省し求められたことについて考察する。第４回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。
第５回	粘土等、可塑的素材による立体造形I （立体造形の入り口として、素材感覚を養う） 【紙粘土で“４本脚の動物”をテーマに、制作】	事前学習	第４回同様、必要な用具・材料を必ず準備することと、その際、多種類の紙粘土等が置いてある場所（店舗）に行き、粘土（造形材料）について調べる。
		事後学習	返却された第４回の作品について、反省し求められたことについて考察する。立体造形の平面との違いを整理する。
第６回	粘土等、可塑的素材による立体造形II （立体造形に欠かせない「素材」に対する意識を高める） 【身近な素材を使った立体造形Ⅰ】	事前学習	第５回同様、必要な用具・材料を必ず準備することと、それに関わることのチェック。
		事後学習	身近な材料について、身の回りをチェックする。
第７回	紙工作I （紙を使う立体造形の基本として、物体の立体的な把握に焦点を当て、平板な紙から、立体を起こす実践によって、平面との違いを実感する） 【紙袋を使って、お面制作】	事前学習	第６回同様、必要な用具・材料を必ず準備すること。その際、紙工作に、どのような材料が使えるかを考えて、準備する。
		事後学習	紙による立体造形について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果、そして、他にどのような方法があるか、配布物や教科書を参考にして整理する。
第８回	紙工作II （紙の特性から、立体を起こす上で必要とされる基本的な理屈を体験し、幼児の指導に求められる視点や、知識を体得する） 【画用紙から“４本脚の動物”をテーマに、制作】	事前学習	前回の体験をふまえ、紙工作に有用な用具や適切と思われる材料を必ず準備する。
		事後学習	紙の特性や、立体造形の材料としての可能性などを、配布物や教科書を参考にして整理する。
第９回	紙工作III （立体の集大成として、各種素材の可能性を探求し、幼児の指導上必要とされる、立体造形に於ける応用力を身につける） 【身近な素材を使った立体造形Ⅱ】	事前学習	身近にある紙や接着剤など、どんなものが“工作”の材料になるか考え、準備する。
		事後学習	制作した体験をふまえ、子どもへの指導上の留意点を、配布物や教科書を参考にして整理する。
第１０回	紙工作IV 【ペープサート制作】 「劇」に登場することをイメージし、裏表の変化を工夫するなど、プレゼンテーションの手段であることを意識して制作する	事前学習	紙工作の体験をベースにした、材料準備。
		事後学習	“観客からの視点”で、自分の作品を見てみる。
第１１回	見立て活動の聞き取り実践 【象徴期、前図式期から図式期の幼児の描画表現に適切に寄り添える技能を身につけるための実践】	事前学習	第４回までの平面作品を中心に、これまでに制作してきた自分の作品に発見したことを思い返し、新たに発見することはないか、一つ一つ、見返してみる。
		事後学習	コミュニケーションの方法や、共感できるための姿勢など、実習で体験したことを整理し、気付いたことを、まとめる。
第１２回	造形基礎IV 【ステンシル】 ステンシル技法を通して、実際の指導時を思い描きながら制作してみる。	事前学習	幼児からこれまでの版的表現体験を振り返る。指示された用具の準備。
		事後学習	初体験な「刷り」の効果を確かめ、予想外に巧く行った点、より工夫できると思われる点などを確認する。作品をファイルする。
第１３回	造形基礎V 【フロッタージュ】 直描きではない版表現からの気づきを、まず、フロッタージュ技法で体験する。素材の選択、フロッタージュできる物探し等、用具、素材への興味関心を高め、授業実施へ応用できる能力を培う。	事前学習	指示内容の意味を深く解釈して材料の準備。
		事後学習	触覚を感じながら制作した体験をより深く認識するように努める。 作品をファイルする。
第１４回	実践実習Ⅲ 【表出体験、表現体験Ⅰ（平面）形、色、音】 表現とはどういうことか、その根本を視覚だけでなく、触覚、味覚、聴覚を関連づけた描画体験から考える	事前学習	指示された用具（使いやすい色鉛筆）の準備。
		事後学習	「表現とは？」をより深く考える。 作品をファイルする。
第１５回	実践実習IV 【表現体験II（平面）目鼻口の無い自画像】 言葉による感情表現を起点とする平面への描画体験か	事前学習	第14回と密接に関係した内容なので、第14回の内容を振り返っておく。
		事後学習	見つめて、発見し、感動する、その大切さを

	ら、児童生徒の表現理解へ近づけるよう、表現とはどういうことかを総合的に把握する。		確実に認識理解する。 作品をファイルする。 全 15 回の活動を振り返り整理して、そこに関連づけられている要点、ポイントを確認する。